

平成 31 年 1 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

**中斎塾 北関東フォーラム
平成 31 年度 第 1 回**

「述」

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

おかげさまで新刊本『陽明学のすすめⅦ 人間学講話 佐藤一斎』が出来ましたので回覧致します。発売日は今月の 24 日ですが、湯島聖堂文化講演会に間に合わないかと頼んだら、急いで刷って下さいました。太田ではイオンの 2 階の書店でも購入できます。是非、お手に取って戴ければ有難いと存じます。

今年から猪瀬理事長が相談役に就任し、岡本理事長の新体制がスタートです。今までと違う動きがいくつか出て来るのではないかと、楽しみにしております。

先ほどの就任挨拶で岡本理事長が、「次の世代へ引き継ぐ、橋渡しをする役目」と言われました。トップはだいたいそういうものですね。私も今のシムックスの社長が就任する時、「あなたの最大の仕事は、次の社長を見つけてバトンタッチすることだ」と話した記憶があります。ですから、中斎塾フォーラムで学んでいる「足るを知る」という考え方をバトンタッチする。それから、猪瀬理事長から受け継いだ仕組みを更に発展させて次の世代にバトンタッチしていく、ということでしょう。

我々が学んでいる論語の一番の基本は、「述」だと私は思っています。「述」は次の世代に引き継ぐ、バトンタッチという意味です。世間的にみれば「仁」（思いやり）という言葉が論語に沢山出ていますが、「仁」というものを伝えることが骨格ですから、やはり「述」だと思います。はからずも岡本理事長がそういうことを言われたので感心致しました。

日本の劣化

日本の国は今、劣化が進んでいます。その結果、困ったものだと感じる事が多々あります。

中斎塾フォーラムに関したことで申しますと、最初は一般財団法人で税金を納めなくても良いという扱いでした。それも毎年申請を出さなければ認められないということで、実

に面倒臭いことを国はさせるものだと思っていましたが、今回は、財団法人の決算書を年度末から2ヶ月の間に出さなかったので罰金を徴収するという通知が来ました。そんな事は知らなかったと言っても、税務署に相談があれば教えるけれども来ない方が悪いという言い分です。しかもその通知を無視すると、その後はずっと罰金を徴収することになるというのです。国は権力を持っていますから、税務署が決めたことを知らないのはあなた方が悪いというわけです。税務署の中では周知徹底されているのですが、国民に伝えるという部分では、あまりにも杜撰ですね。まさに劣化が酷いと感じました。

では、論語の視点に参ります。本日は陽貨篇1~3です。

梅川代表幹事の素読は、一つひとつの言葉を間違えないように味わい深く読んでおられたので良かったと思います。更に、状況が目に浮かぶように読んで戴くと、抑揚がついてくると思います。先日亡くなった市原悦子さんは非常に感情のこもった朗読をされましたが、収録の際の映像を見ると、身振り手振りで身体を動かしながら朗読していました。なるほどこうやって感情を入れているのだと思いました。

【一】陽貨、孔子を見んと欲す。孔子 見えず。

陽貨が孔子に会いたいと面会を申し込んだが、孔子は会わなかった。

・・・当時の魯の国の国政は三桓と言われる大臣クラスが牛耳っていました。三桓のトップが季氏で、揚貨はその家臣です。陽貨は自分の主君を殺してその権力を握って、更に三桓も抑えて国政を牛耳ったわけです。日本でいえば松永久秀（弾正）のようなポジションです。

孔子から見ると、家臣でありながら三桓を抑えて魯国の独裁者になっているとんでもない悪人だと思っているから、会いたくないわけです。

孔子に豚を帰る。孔子 其の亡きを時として、往きて之を揮す。諸れに塗に遇う。

陽貨が孔子に豚を贈った。孔子は揚貨の留守を見計らって答礼に出かけたが、途中で陽貨に会ってしまった。

・・・当時の儀礼で、目上の人間から進物を貰ったら、目下の人間はお礼に出向かなければなりません。孔子は当然その儀礼に従うだろうと思って陽貨は孔子に豚を送ったのですが、孔子は会いたくないものだから、留守を見計らって家に行く。相手もさるも

ので、孔子が来るのを道で待ち構えています。それが「諸れに塗に遇う」で、このタイミングで会うか…という気持ちが込められています。孔子はもう少し策略をめぐらして迂回路を通っていけばよかったですね。

こうし い いわ きた よなんじ い いわ そ たから いた くに まよ
孔子に謂いて曰く、来れ、予爾と言わん、曰く、其の宝を懐きて、その邦を迷わす
じん い いわ ふ か
は、仁と謂うべきかと。曰く、不可なりと。

陽貨が孔子に言いました。「こちらに来たれ。私はあなたと話をしたい。世を治める能力を持っているのに、今この国が乱れているのを救わないというのは仁といえるだろうか」
「それは仁とは言えません」と孔子が答えた。

・・・「来れ、予爾と言わん」とは、孔子一門の決まった問答の時の科白です。陽貨がその定型の問答を使って話しかけたわけです。自分が国を乱しておきながら、この国を救わないのかと孔子に問うて、それは仁ではないという答えを引き出したのです。

こと したが この しばしば とき うしな ち い いわ ふ か
事に従うを好みて、亟時を失うは、知と謂うべきかと。曰く、不可なりと。

「国事に奔走することを好んでいるのに、そのタイミングを見過ごすのは知識人といえるだろうか」

「それは知識人とは言えません」と孔子が答えた。

・・・孔子は世を救うことを使命と思っているのに、今出て行かないのはタイミングを間違えているのではないかと陽貨が孔子に問うて、その通りだと答えを引き出しています。

じつげつゆ とし われ とも こうし いわ だく われ まさ つか
日月逝く、歳我と与にせずと。孔子曰く、諾、吾將に仕えんとすと。

「時は過ぎる。齢をとることは止められないものだ（なぜ仕官しないのか）」

「承知しました。そろそろ私も仕官せねばなりませんね」と孔子が答えました。

・・・孔子は揚貨のような無礼な小人に対しては無理に逆らわずに、しかし陽貨には仕えないという自分の説も曲げずに、他人事で答えています。

こういう答え方を覚えておくとよいですね。ただし、あまりやり過ぎると政治家の言葉になりますから、気をつけなければいけません。

次の二つはセットですので、一緒に説明致します。

【二】子^し曰^{いわ}く、性^{せい} 相^あ近^いし。習^{なら} 相^あ遠^{いと}し。

孔子が言うには、生まれつきの素質は皆同じようなものだが、生まれた後の習慣によって遠く離れるものだ。

「性」とは生まれつきの素質、「習」は学ぶこと、それも無意識でする学びです。

私はこの科白が好きでして、学ぶ事が習慣化している人はどんどん横の学問が増え、縦の学問に移りはっと気付く、「悟り」に入っていきます。一生懸命学んでいる人は同じように進んでいくけれども、学んでいく習慣がない人はだんだん離れていくとお考え下さい。

但し、孔子は言い過ぎたという部分があるので、次のように言っています

【三】子^し曰^{いわ}く、惟^し 上^い知^わと下^し愚^いとは移^わらず。

最上の知者と最下の愚者は、習慣によって変化しない。

「上知」は、生まれついて色々な物事を知っている者。「下愚」は最下等の愚物、いくら学んでも覚えられない者です。

学びは苦しんで困った時に活きるのもあって、表面だけ学んでいても、字面を追っても少しも役に立たないとお考え下さい。

では、時事評論に繋げましょう。

先ほど、日本は劣化していると申しました。以前もお話しましたが、新聞はヒントとして見るがよいと申しました。自分が気になるものを見つけて、それに絞り込んで追及していくことです。最近、私が気になっているのはゴーン事件ですので、これはずっと追いかけています。

他に、新聞から幾つか気になったものを申します。

・**年金支給 0.1%増に抑制** (1/19 読売新聞)・・・厚生労働省は年金の支給に関して、前年度比で0.1%引き上げると発表しました。しかし、「受給額は増えるが、物価水準ほどは伸びないため、実質的には目減りする」とあります。支給額を上げたからいいじゃないか・・・と、まさに劣化しています。

介護職員の給料も同じです。政府は、「介護職員の給料を上げます」と大輪の花火を上げています。ところがこれは階段のような構図で、条件をクリアしたら一段上がり、そう

すると又次の条件があって、階段の上にとどり着くのは沢山の対象者の中の一握りです。ですから多くの介護職員の給料の実態は目減りしています。

・**厚労省「隠蔽」拭えず 一放置 15年 データ補正も** (1/19 読売新聞)・・・厚労省が毎月の勤労統計の調査方法を手抜きして、給与額の算定に誤りが出た。それが15年も続いていて、国の予算を大幅増額しなければいけなくなったという内容です。1973万人、30万事業所に569億円の追加給付と発表されています。まさにお役所仕事ですね。ちょっと失敗したけど直接被害が出ていないからまあいいだろう・・・と、全部先送りしています。その結果、とんでもないしっぺ返しが来ることになるわけです。自分自身だけでなく、今回は事務次官のクビという所まで飛び火して、予算案の追加変更までいってしまいました。

自分の身の周りのことから、会社のこと、国民としてのことから何でもそうですが、失敗したなあと思った時に直ぐに手を打っておかないと、後が大変です。

・**ゆうちょ上限 金融庁敗北** (1/15 読売新聞)・・・ゆうちょ銀行の預け入れ限度額が、1300万円から2600万になるという記事です。

これらの記事を全部読めると、国や官僚の劣化が明らかです。その結果、国民に渡さなければならないものが、表面は良いことを言いながら中身はどんどん目減りしています。しかし国へお金を吸い上げたいものだから、郵便局に預ける上限額は増やしたというわけです。つまり、「出すものは出さないが取るものは取る」という内容のものがどんどん進んでいると感じます。

余談になりますが、先日、イトーヨーカドーの伊藤雅俊社長の『商いの道』という本を読みました。二十数年前に書かれた古い本です。その中から印象に残ったものをお話します。

伊藤社長が松下幸之助さんと会った時、当時、手探りで始めたばかりのセブン・イレブンについて松下幸之助さんに相談したところ、松下さんは「この店は1万店になるよ」と言われたそうです。経営の神様が言うのだからと大きな励みになったと伊藤社長は書いています。まだセブン・イレブンが100店舗に満たない頃に、1万店舗はいくと答えた松下幸之助さんの先見の明はやはり凄いと感じました。

前にお話しましたが、セブン・イレブンが出来た経緯は、イトーヨーカドーの役員の中でただの取締役だった鈴木敏文さんがアメリカ視察の際、面白い商売を見つけた。それが

コンビニというスタイルでした。鈴木さんは役員会でコンビニスタイルの店を導入したいと提案したけれども、全員反対で否決されます。ところが役員会の終わった後に、伊藤社長が内緒でやってみなさいと言って、始めたのがセブン・イレブンです。

本の中で紹介されている松下幸之助さんの言葉が気になりました。松下幸之助さんは、従業員が300人くらいで自ら「ああせい、こうせい」と指揮していた頃が一番楽しかったというのです。従業員が300人くらいの小企業の際は、社員の顔が見えて自分の言ったことが社内に行き渡る。それが1000人2000人の中企業になると、自分の声が社内に通らないから、管理職に頼むしかない。まして何万人という大企業になったらまるで伝わらないから、手を合わせて拝むような気持ちだったと言っています。

また、伊藤社長は大企業の陥りやすい弊害として「お上意識を持ち始めたら、間違いなく衰退の道をたどり始めたと言ってよい」と書いています。それは、仕入担当者がどういう態度で取引先と対応しているかを見れば分かるのだそうです。例えば、腕組みをしたり、足を組みながら取引先と商談をしていたら、相手を下に見るお上意識だから気をつけなければいけないというわけです。更に、「お上意識は官僚主義と置き換えてもよい」とも書いています。いわゆる大企業病というものです。

皆さん、自分自身に置き換えてみると如何でしょうか。腕組みをして、或いは足を組んで相手と応対するようであれば、自分の心の中に大企業病が巣食ったのだと思って下さい。また、これは人物かどうかが判断する上で、一つの判断基準にもなると思います。

ということで、役所も政治家も民間もひっくり返して日本全体が皆、劣化をしています。劣化をしている今こそ、学びを深める必要があると思います。ですから我々は学ぶということを一所懸命することです。学びにも段階があって、<さあ、今日は勉強するぞ！><〇〇に行って勉強しよう！>というのは、まだ入り口に立ったところで、無意識のうちに学んでいるという状態になったら本物です。後は、深めるだけになります。

悟りについて - 紹介書籍

中斎塾フォーラムの「足るを知る」という言葉も、気をつけているとあちこちに沢山あります。今日ご紹介する無能唱元さんが書かれた『サトリー「悟り」とは、どんなことなんだろう』（致知出版社）という本にも、「分を知り、足るを知るというものは良い」とありましたので御紹介します。とっつきやすい文章で、分かりやすく書かれています。

その中に、人生とは緊張と弛緩の繰り返しだという説明がありました。緊張とは自分が意識的にするのではなくて、例えば大災害が来たり、恥ずかしい思いをするといった他所

から来る刺激で緊張するわけです。一方、弛緩は自発的にやらない限りリラックス出来ません。肩を思いきり上げて、ふっと落とす。これがリラックスです。ゆったりお風呂に浸かった時もリラックスしますね。私は詩吟で良い声が出たと思うと、やはり身体がほぐれていますから、リラックスしている証拠です。自分でリラックスしているなど感じる体験をしたら、それを日常的に取り入れればよいと思います。何でもよいのです。達成感があるようなもの、自分でリラックスするものを見つけられるとよろしいでしょう。

第二の人生のヒント

では、本日のテーマ「人生を深く考える」です。今日ご参加の皆さんは、人生を深く考える時期に来ていると思います。佐藤一斎には第二の人生をどう向き合えばよいか、どういう心構えでいけばよいかというヒントが沢山載っています。

ご存知の通り、佐藤一斎は幕末から明治維新にかけてのリーダー達を教えた大先生です。70歳までは普通の先生稼業をして、悠々自適で隠居を決めていたにもかかわらず、71歳の誕生日を迎えた2カ月後に、幕府から昌平坂学問所の儒官に任命されます。今まで自分を教えてくれた師匠が亡くなって、跡を引き継げるのは佐藤一斎しかいないということで、幕府の学問での最高機関のトップに抜擢されたわけです。私塾の塾長から、今で言う東大の学長になったのですから、一斎にとっては青天の霹靂だったでしょう。それから88歳で亡くなるまで18年間、大車輪で第二の人生を突き進んでいきました。

佐藤一斎は人生の転機について、「男は五十、女は四十」と残しています。自身も50歳の時、自分の人生を見直そうとルーツ探しの旅に出ています。これは、王陽明が50歳で人生の転機を迎えたので、それに倣ったもので、2ヶ月という当時にすると大旅行でした。一方、女性の人生の分かれ道は40歳だと書いています。

それから、男性の性欲について、佐藤一斎はこう書いています。20代30代は貝原益軒のいう「接して漏らさず」というコントロールは必要だけれど難しいだろう。40代になるとだんだん性欲はなくなってくる。50代になると性欲が復活することがあるけれども、やめた方がよいと言っています。いずれにしても性欲は慎むに越したことはないとの考えのようです。

また、酒についてはくれぐれも慎みなさいという記述が沢山あります。晩年の記述には、「我が家には酒の氣はいっさいなく、とても平穩な家庭である」とありますが、どういう酒の失敗をしたかは、何も書いていません。

一斎は19歳で仕官し、一年で辞めています。その理由は、隅田川で舟遊びをしていて、おそらく酒を飲んで酔っ払っていたのでしょう、将軍家献上の鯉船と衝突し同僚が溺死し

てしまった。その責任をとって、一斎は武士をやめて学問で身を立てようと決めたわけですが、その時に酒を飲んでた云々という記述は、いっさいありません。

また、一斎は今で言うイケメンでしたから、女性から付け文を貰うわけですが。それをたまたまお師匠さんに見せたところ、女性がお師匠さんに叱られたのでしょ、井戸に身を投げて死んでしまったという記録があります。真偽のほどはわかりませんが、これも酒が絡んでいたと感ずます。そういう色々な若い時の失敗があるので、酒は禁物だという文章が沢山残っていました。

ということで、色を慎め、酒を慎め、と分かりやすいですね。

更に、学問については、良い本を見つけなさいと書いています。そして、心で読みなさいと言っています。若い時は貪るように沢山読んだけれども、年齢をとってあらかた忘れてしまった。しかし心で読んだものは残るから、心に残ったものを伝えて学びの大切さを説いているのだという記述があります。

ということで、佐藤一斎の書いたものを見直して、ご自分の人生の参考にされると良いと思います。

恒例の質問

残りのお時間で恒例の質問を致します。今年まだ始まったばかりですが、

- 良い日がずっと続いていると思う方
- 今年になって、嘘をついていないという方
- 有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方
- 健康法実践している方
- 自分磨きをしている方

次の質問は、全然別の次元です。

- 昨晚寝る時に、明日以降を過去形でイメージした方

最後に、今年私が意識している事をお話します。今年己亥（きがい・つちのとい）です。干支については前回、国の根幹を揺るがすような爆発が起きる可能性がとても高くなる年回りと申しました。

そこで私は今年から、貴重品や革靴等をひとまとめにした袋をベッドに括り付けて寝るようにしています。夜中に地震が来ても飛ばないように、しっかり結わえています。それから移動中は水と食べ物を必ず持つようにしています。それだけ、危険が近づいていると思っていますので、皆さんもご自分で対策をされるようお勧め致します。